

令和4年度 政策評価表

		作成日	令和4年8月30日
リーディングプロジェクト	元気でいきいき“健幸(けんこう)長寿のまち”の実現	ゼネラルマネージャー	健康推進部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	健康推進部長、経営企画部長、市民部長、福祉部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、建設部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	保健センター長、健康推進部次長、経営企画課長、広報課長、まちづくりセンター担当参事、地域づくり推進課長、文化芸術振興担当参事、高齢者支援課長、保健医療課長、国民健康保険課長、健康づくり支援課長、健康づくり支援課主幹、みどり自然担当参事、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、都市計画課長、交通政策室長、市街地整備課長、道路建設課長、道路維持課長、公園課長、河川担当参事、教育総務部次長、社会教育担当参事、スポーツ振興課長、文化財保護課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

健康で幸せを感じながらいつまでもいきいきと地域で暮らすためには、充実した医療体制はもとより、市民一人ひとりが自分の心と体を大切にする健康意識の向上が重要となるため、歩くこと等を中心とした生涯を通じた健康づくり、体力づくりを進めていく必要があります。

また、人や自然とのふれあいは、心の豊かさや活力を育むことにもつながります。誰もが外に出て人や自然に触れ活動したくなるように、所沢の豊かな自然を生かした魅力的な散策路の整備や、人々が楽しみを感じる集いの場を増やすなど、「歩いて」「楽しんで」健幸長寿を実感できるまちづくりを進めます。

【令和3年度に実施した事業】

「主な取り組み」にあたる事業

3-1-1 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）	
トコトコ健幸マイレージ事業	健康づくり支援課 国民健康保険課
3-5-1 スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）	
スポーツ教室開催事業	スポーツ振興課
健康体操推進事業	スポーツ振興課

「関連する取り組み」にあたる事業

1-1-1 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）	
地域づくり支援事業	各まちづくりセンター

1-4-1 自立した生活を継続するための取り組みの推進 (介護予防や重度化防止に向けた取り組み)	
介護予防普及啓発事業	高齢者支援課
地域介護予防活動支援事業	高齢者支援課
老人福祉センター等運営事業	高齢者支援課

4-2-3 みどりと水の保全(「水とみどりがつくるネットワーク」の構築)	
水とみどりがつくるネットワーク計画推進事業	みどり自然課
砂川堀水辺保全・散策路整備事業	河川課
所沢カルチャーパーク築造事業	公園課

5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化(新規・既存の観光拠点の整備・充実)	
「所沢市観光情報・物産館」整備事業(COOL JAPAN FOREST 構想事業)	商業観光課
観光拠点の整備・充实事業	商業観光課
都市拠点土地利用デザイン推進事業	都市計画課

5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成(新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上)	
インバウンド戦略推進事業(COOL JAPAN FOREST 構想事業)	商業観光課
観光客回遊性創出事業	商業観光課

5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進(食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進)	
ヘルスツーリズム産業創出支援事業	商業観光課
地産地消推進事業	農業振興課
体験農場推進事業	農業振興課

6-1-2 所沢らしい景観まちづくりの推進(所沢らしい良好な景観の形成)	
景観まちづくり推進事業	都市計画課

6-3-4 歩行者・自転車環境の整備推進(バリアフリーに配慮した空間の整備)	
自転車レーン整備事業	道路維持課

## 【評価及び今後の方針】

### 令和3年度の取り組みに対する評価

#### 主体的な健康づくりの推進（歩くこと等の健康的な取り組みによる生活習慣の改善）

「トコトコ健幸マイレージ事業」については、令和2年度に引き続き、「『歩くこと』を中心とした健康づくり」のコンセプトに基づき、本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施した。

広報ところざわやところざわほっとメール、Twitterを活用した情報発信を行うとともに、従来からの地区活動や健診等での周知に加え、新型コロナワクチン集団接種会場においてチラシを配布するなど、事業のさらなる周知に取り組んだ結果、令和3年度末の参加申込者数は10,752人となった。

また、埼玉県が民間団体とコラボレーションして実施したウォーキングイベントと連携することで参加者拡充に加えて歩数増加にも取り組んだ。

さらに、栄養・歯科・健康増進全般に係る各種教室等については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止になったものもあるが、規模を縮小したり感染症対策を行いながら、令和2年度よりも開催回数を増やし、健康増進につながるよう努めた。

#### スポーツ活動を通じた健康・体力づくりの推進（スポーツ活動を気軽に楽しめる環境づくり）

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年度も市民プール、所沢シティマラソン大会は中止したが、モルック（1）やペタンク（2）などのユニバーサルスポーツを含む5種目を親子で体験する「親子スポーツフェア」を新たに開催した。

また、「トころんウォーク」、健康体操教室、スポーツ教室は感染防止策を実施しながら開催し、スポーツ活動の推進に努めた。

1：モルック...モルックと呼ばれる棒を投げ、木製のピン（スキットル）を倒して、その内容によって勝敗を決める、フィンランドの伝統的なゲームを元に開発されたスポーツ。

2：ペタンク...コート上に描いたサークルを基点として、木製のピュット（目標球）にブルーという金属球を投げ合って、相手よりも近づけることで得点を競うフランス発祥のスポーツ。

#### 地域コミュニティの充実（地域課題解決に向けた自発的な取り組み）

地域活動の多くは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となったが、各まちづくりセンターでは、とこしゃん体操教室や体力づくり講座、健康増進に資する講座実施などの事業に取り組んだ。

また、「地域づくり協議会」等とともに地域活動を知ってもらいながら健康増進につながる取り組みとして、ウォークラリーや地域マップ作りなどを行った。

さらに、ところバスの「山口城址」バス停では、地域包括支援センターを事務局とした地域住民の有志メンバーによりベンチが設置された。

新型コロナワクチン接種について、インターネット等による予約が困難な方に対して、まちづくりセンターでの予約支援を実施したほか、一部の自治会・町内会については、自治会館等集会施設で自主的に予約支援を行った。

### **自立した生活を継続するための取り組みの推進（介護予防や重度化防止に向けた取り組み）**

70歳以上の偶数年齢の高齢者を対象に、健幸のための「元気アップ大調査」を実施し、運動機能・口腔機能・社会参加・生活状況等にかかるアンケートを通して、介護予防・重度化防止・認知症予防の知識や、市の取り組み等について普及啓発を図った。その中で、新型コロナウイルス感染症により、外出や人と会うことが制限され、閉じこもりがちな状況が懸念されることから、壁に貼って取り組める理学療法士監修の「おうちでできる簡単体操」（写真付き）を紹介した。

その他にも、ところん元気百歳体操等、地域の通いの場における介護予防の取り組みの支援や、市内のスポーツクラブにおいて、運動機能の維持・向上などの介護予防や認知症予防を目的として、「いきいき健康体操教室」を実施した。

老人福祉センター・憩の家においては、感染症対策に努めながら自主事業や教養講座等を実施した。また、各老人福祉センター・憩の家の利用者が作成した手芸作品等を持ち寄り、各荘を巡回する作品展を開催した。

### **みどりと水の保全（「水とみどりがつくるネットワーク」の構築）**

水やみどりとまちのにぎわいや魅力を結ぶ散策路を設定し「人を中心にしたまちづくり」の実現を目指す「所沢市水とみどりがつくるネットワーク計画」について、庁内関連事業を相互に連携させ進捗を図ることを目的に、庁内会議「みどりトコトコ・プロジェクト」を開催し、情報共有を図るとともに進捗管理を行った。

また、美しい自然景観が魅力の狭山湖やその周辺を訪れる散策者や観光客の安全を図るため、市道5-4号線に設置した人道橋「狭山湖ふれあい橋」の周囲について、安全対策と景観向上を目的に整備工事を実施した。

併せて、所沢カルチャーパーク築造事業では、武蔵野の雑木林の保全・活用を図り、市民が身近な自然と触れ合う場となる「自然環境保全型の総合公園」として、用地約3,592㎡を取得するとともに、大型複合遊具、高齢者向けの健康器具、園路、駐車場等の整備を行った。

さらには「砂川堀水辺保全・散策路整備事業」において、散策路の整備（208.13m）及び維持管理を行い、「東川桜舞う遊歩道事業」において、桜並木及び遊歩道の維持管理を行った。

### **にぎわい拠点の創出・活性化（新規・既存の観光拠点の整備・充実）**

令和3年5月に「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」を開業し、本市の観光情報の提供や特産物のPR・販売等による魅力発信拠点として、指定管理者による運営を開始した。開業に当たり、広報ところざわで特集記事を掲載したほか、市ホームページやSNS等で情報発信を行った。開業後は、様々なイベントを開催し、本市の魅力発信及び新たなにぎわい拠点の創出に取り組んだ。

また、所沢駅周辺では複数の大規模開発が進んでおり、街の姿が大きく変化し始めているなか、駅周辺の大規模施設の賑わいを街なかに波及させるため、街なかに滞留空間を設置した社会実験を行うとともに、人々が歩きたくなる街づくりの「ビジョン」となる「所沢駅周辺グランドデザイン」を作成した。

### **にぎわい拠点のネットワーク形成（新たなにぎわい拠点・観光交流拠点間の回遊性の向上）**

本市の観光情報の提供や特産物のPR・販売等による魅力発信拠点である「所沢市観光情報・物産館 YOT - TOKO」の開業により、本施設から市内外の各観光拠点への回遊性を生み出すことが期待されている。

令和3年11月には「埼玉県西部地域まちづくり協議会（ダイアプラン）観光部会」と連携した観光PRを本施設で実施する等、市内外の各観光拠点への回遊性を生み出す取り組みを行っている。

「にぎわい拠点間の回遊性の向上」のため実施中の「シェアサイクル実証実験」については、サイクルポートの設置個所が66か所となり、1年間の利用回数も約26,000回となった。

また、外国人観光客の受入れが再開されたときに本市に誘客するための情報発信として、台湾からの観光客受入れを目的としたプロモーションを行うとともに、多言語対応の冊子作成や観光案内板等の設置を行った。

### **観光を軸としたブランド化の推進（食を通じた新たな魅力の創出や地産地消の推進）**

地産地消推進事業については、新型コロナウイルス感染症によりイベント開催の制限を受けつつも、感染防止策を講じたうえで、各種マルシェに参加する農業者への支援を図るとともに、安全・安心な地元農産物の調理方法を掲載した「地産地消レシピ」を通じて、健康づくりを支援することに努めた。

また、体験農場推進事業については、土との触れ合いによりリフレッシュ効果を得ることで、心身ともに充実した生活へと繋げるため、受託事業者と連携を図りつつ、定期的な巡回等を行うことにより、農場の適正管理に努めた。

「クアオルト 健康ウォーキング」を活用した観光振興を実施する「埼玉県・所沢市ヘルスツーリズム協議会」と協働して、「クアオルト健康ウォーキング」を実施し、広報ところざわや市ホームページ等による情報発信を行いつつ、観光と健康を融合した事業を展開した。

### **所沢らしい景観まちづくりの推進（所沢らしい良好な景観の形成）**

個人宅の草花や庭木のガーデニングを登録し、公開している庭を掲載した「とことこガーデンマップ」を作成して、良好な景観の形成につなげるとともに、外に出て街歩きを楽しむ契機としている。また登録したガーデナー同士や地域内での交流も生まれている。さらに、所沢らしい景観を市民の推薦で景観資源として登録し、このうち表彰された景観をガーデンマップやホームページ等で紹介するなど優れた景観を発掘・共有して外出のきっかけ作りとした。

### **歩行者・自転車環境の整備推進（バリアフリーに配慮した空間の整備）**

要望の多かった道路安全施設整備事業（カーブミラーの新規設置）に重点を置いたため、自転車レーン整備は実施しなかった。

歩くことによる健康づくりを推進するためには、休憩の場となるベンチの設置も必要であることから、市内各所にて実施しており、令和3年度は、「西武園ゆうえんち駅」バス停にベンチを設置した。

## <総評>

新型コロナウイルス感染症は、令和2年度に引き続き令和3年度においても社会生活に大きな影響をもたらした。感染者数が減少すると、新しい変異株が発生し、感染者が再度増加する状況が繰り返され、その度に市民生活や社会・経済活動は制限を受けたが、各課では、中止を余儀なくされた事業もある中で、感染症拡大予防に配慮しつつ様々な事業が実施された。

「トコトコ健幸マイレージ事業」では、昨年度に引き続き『歩くこと』による健康づくりをコンセプトに実施し、新たに新型コロナワクチン集団接種会場でチラシを配布するなど、周知を進めることで参加者数を増やし、令和3年度末時点の参加申込者数は目標としていた1万人を超え、10,752人となった。

また、感染症拡大防止のため大規模なイベントは中止となったが、各地域においては体操教室や体力づくり講座などの健康増進事業を、感染症対策を行いつつ実施するとともに、市民の出歩きを促進するため、地域を知ってもらうためのマップ作りや地産地消レシピの作成、所沢らしい景観や歴史、文化、芸術に関する情報発信や体験講座などが開催された。

さらには、新たなにぎわいの拠点となる「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」が開業したほか、所沢カルチャーパークでは大型複合遊具や園路等が整備され、東川や砂川掘の周辺では遊歩道などの整備や維持管理、その他の地域でも休憩できるベンチの設置が進められるなど、市民が楽しみながら歩けるまちづくりが着実に進められた。

歩くことが楽しくなるまちづくりのための整備が進められる中で、所沢カルチャーパークや東川周辺、ところざわサクラタウンといった市内の名所を巡るルートを設定した「トコロんウォーク」が開催されるなど、各部署が個々に取り組んでいる事業が次第に結びつき始めている。

## 今後の方針

令和2年1月に、国内で新型コロナウイルス感染者が初めて報告されてから、すでに2年以上が経過したが、終息は未だ見えない状況が続いている。多数の人々が一同に会する様なイベントは実施できず、親しい人との交流も自由にできない自粛生活の長期化により、市民の心身への悪影響はより深刻化している状況であり、市民の健康増進の取り組みがより重要になっている。

本市では引き続き、市民各々が自分のペースで楽しみながら自由に取り組める「心」と「体」の健康づくりに取り組んでおり、併せて市民が自ら歩きたくなるような、魅力溢れるまちにするための取り組みも各課で実施されている。

現在、「人を中心にしたまちづくり」という基本方針のもと、市民が自家用車に依存せず歩きながら生活できるようなまちづくりが進められている。当プロジェクトにおいても「歩くことによる健康づくり」という観点から、多くの市民が、所沢市の豊かな自然、歴史、文化、芸術、街並みに触れ、「ふるさと所沢」を感じながら、楽しんで歩けるよう、ソフト・ハードの両部門が連携して様々な施策に取り組み、「元気でいきいき“健幸長寿のまち”」の実現を目指していく。

## 【SDGsへの貢献】

- |   |                    |    |                   |
|---|--------------------|----|-------------------|
| 1 | 貧困をなくそう            | 10 | 人や国の不平等をなくそう      |
| 2 | 飢餓をゼロに             | 11 | 住み続けられるまちづくりを     |
| 3 | すべての人に健康と福祉を       | 12 | つくる責任 つかう責任       |
| 4 | 質の高い教育をみんなに        | 13 | 気候変動に具体的な対策を      |
| 5 | ジェンダー平等を実現しよう      | 14 | 海の豊かさを守ろう         |
| 6 | 安全な水とトイレを世界中に      | 15 | 陸の豊かさも守ろう         |
| 7 | エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 | 平和と公正をすべての人に      |
| 8 | 働きがいも経済成長も         | 17 | パートナーシップで目標を達成しよう |
| 9 | 産業と技術革新の基盤を作ろう     |    |                   |